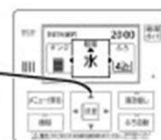
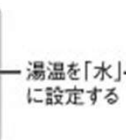
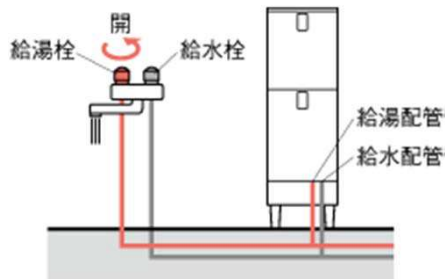


エコキュートの凍結にご注意ください

これからの季節、最低気温が氷点下になると配管・機器の凍結のリスクが高まります。
配管が凍結するおそれがある場合は下記の設定・機能の活用をお願いします。

① 糸引き状態に水を出す

外気温が0℃以下になると、保温工事を行っていても、給水・給湯配管が凍結することがあります。
このようなときは、リモコンで湯温を「水」に設定して給湯栓を少し開いておいてください。



※一部「水」設定ができない機種がございます。

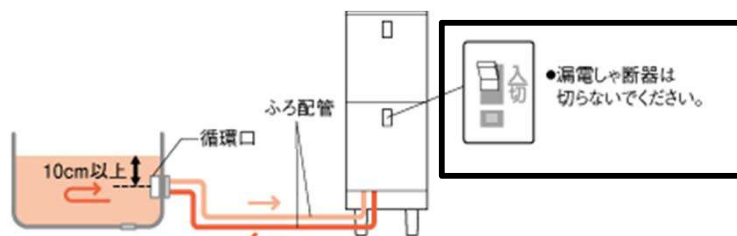
「水」設定できない機種については、1分間に200cc程度出るように「給水栓」を開けておくと、凍結しにくくなります。

※お湯が出ない場合は、凍結が解消するのをお待ちください。

② 残り湯を循環させる(フルオートのみ)

浴そうにお湯や水をはったままにする

※浴そう水を自動で循環させることにより、ふろ配管の凍結予防運転をおこないます。

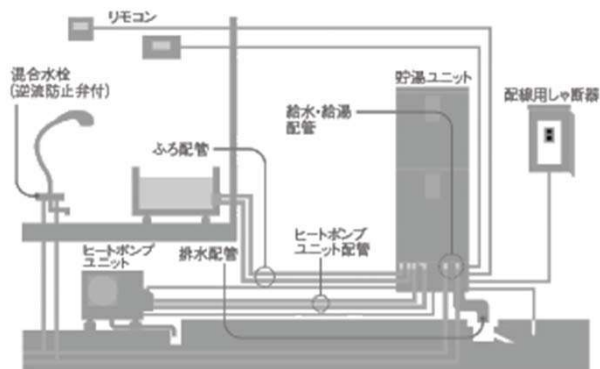


入浴後排水をせず、お風呂にお湯を残しておきます。(※ポイントは循環口の中心から、10cm以上)
外気温が約3℃より低くなるとふろ配管の凍結予防運転を自動で行います。
残り湯がない場合は、水をはってください。(水がないと循環口から水が出たり、30分おきに作動音がします)

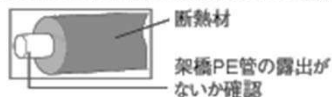
③ 各部配管の保温材の点検

給水・給湯配管、ふろ配管、ヒートポンプ配管は断熱材で覆われています。

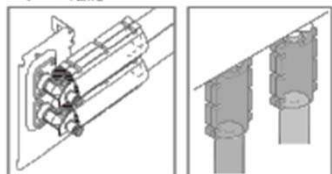
破損等はないかご確認ください。破損している場合はご連絡ください。



●各配管の断熱材の破損等はないか確認



●配管の根元の断熱材はズレ、破損等はないか確認



保温工事をしていても周囲温度が0℃以下になると凍結します。
機器や配管が破損する場合がありますので、凍結予防ヒーターを巻いて加温してください。

万一、凍結してしまったら

1 外の気温が上がり、配管内の凍結が解消するまで待つ

夜中に凍結したものは、夜が明けて次第に気温が上がるに連れて凍結が解消される場合があります。

2 お湯を早く使いたい場合

エコキュートのタンクからヒートポンプにつながる給水、給湯配管、タンクから浴槽の循環口につながる風呂配管（フルオート機種）部分全てにぬるま湯をかけて溶けるのを待つ。

（※熱湯をかけると配管破損の可能性がありますのでご注意下さい※）